

# 臨床検査部門の 監理運営



## 連載の背景

現在、我が国の医療を取り巻く環境は、少子高齢化の進行、疾病構造の変化、医療技術等の進歩による国民医療費の増大などで急速に変化しつつある。また、医療訴訟の激増など医療に対する国民のニーズの多様化に伴って、医療の質の確保や医療事故の防止が喫緊の課題となっている。

このように変貌する国民医療制度の中、臨床検査部門の監理運営の実務においても高度な学術的知識と技術が要求され、単なる運営に止まらず、真の経営能力を備えた人材が必要となっている。社会的にも経営的にも大きな変革を余儀なくされる中、あるべき医療の方向性を正確に把握・認識し、良質の検査サービスを提供するためには、医療関連分野を網羅した包括的な教養が必須となる。

我が国では、医師が検査部門の運営に携わることが従来からの慣行であった。しかし、臨床検査の高度化と複雑化に対応するためには、検査部門の運営や医療政策の実務に役立つ専門知識が必須である。即ち、効率的でかつ患者中心の検査を高度水準で提供し、円滑に対応するには、検査知識とともに組織を管理するマネジメント能力に加え、外部環境の危機的要素を機会へと転換できる発想力が必要となってきた。

そこで、質の高い検査サービスを提供するための戦略的な監理運営を行う基礎知識について連載することとなった。



## 基礎知識体系

### <Thinking>

戦略的な監理運営を行う基礎知識体系については、図に示した要件が考えられる。

知識体系の最も基盤となるのは、「ロジカルシンキング」「スパイラルシンキング」「逆算思考」などである。これらの思考法の習得なくして、その上に積み上げられる知識は実践においてその真価を発揮することはできない。

知識体系の最も基盤となるのは、「ロジカルシンキング」「スパイラルシンキング」「逆算思考」などである。これらの思考法の習得なくして、その上に積み上げられる知識は実践においてその真価を発揮することはできない。

たとえば、ロジカルシンキングは、日本語で論理的思考と呼ばれ、「物事を論理的に考え、分析し、相手にわかりやすく伝えるための方法」のことであり、「論理的に考える」とは物事を分類したり、整理したり、組み立てたりし、筋道を立てて考えることである。「論理的に考える」のは、数学や論理学のような学問をするためではなく、日々の監理を効率的に進めるためなのではない。

また、ロジカルシンキングの習得する目的は「論理的に伝える」ことでもある。思考や分析の結果が整理されていると、自ずと論理的でわかりやすい説明になる。自分の考えが相手に受け入れられ、相手が行動を起してくれることが重要である。

ロジカルシンキングは、日常の様々な場面で使う機会がある。

- ・情報収集
- ・コミュニケーション
- ・資料作成
- ・会議運営
- ・プレゼンテーション

といった場面であり、ロジカルシンキングによって論理的に考え、分析し、わかりやすく伝えることが可能となる。

### <Enterprise Resource>

次に来るのが、経営資源に関する知識である。

一般に経営資源といえば「ヒト、モノ、カネ」の3要素を挙げることが多いが、最近、第4、第5の要素との言葉が登場してきている。「情報」「ワザ」「知恵」などであり、これらが企業価値創造のための経営資源と位置付けられている。

ここでいう「知恵」とは具体的には、個人や組織、技術、コミュニケーションなどに存在する「独特なノウハウ、方法論、行動規範など生み出す源泉（能力）」を指す。そして、これらを柔軟に活用して持続的成果を志向する経営を「知的資産経営」と呼ぶ。

知的資産というと特許や著作権のような特定の知的財産をイメージされるかもしれないが、暗黙知のようなものまでを含む。

では、経営資源3要素の必須知識は何であろうか。以下の知識が考えられる。

《ヒト》組織、人事

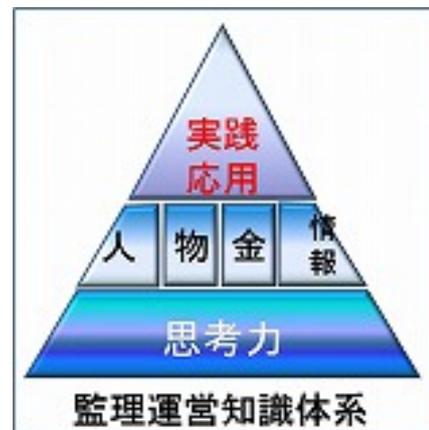
《モノ》経営戦略、マーケティング

《カネ》アカウンティング、ファイナンス

さらに、情報の要素としては「ERP(Enterprise Resource Planning)」があり、直訳すると企業資源計画となる。財務会計・人事などの管理業務。在庫管理などの生産業務、物流などの販売業務など企業が蓄積する情報を統一的に管理し、企業活動の効率を最大限に高めるシステムとソフトウェア。つまり、経営資源の最適化を実現するためのツールである。

このように「情報」とは、「ヒト、モノ、カネ」の3要素を統合する要素として位置づけられ、IT技術を含めた要素である。

次号から監理運営基礎知識の必須知識について解説していく。



【町田幸雄】

次号へ続く...